

す。しっかり頑張ってください。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） 関連質問に入ります。新政会、14番、初村久藏君。

○議員（14番 初村 久藏君） 皆さん、おはようございます。会派、新政会の初村久藏でございます。ただいま会派代表質問で作元議員のほうから、比田勝市政について、これまでの総括と今後の取り組みについて数点質問をされました。

関連質問で私は、第1次産業の農林業振興について3点通告をしておりますので、通告に従いまして質問をいたしますので、市長のお考え、御見解をお伺いをいたします。

1点目の耕作放棄地の解消についてでございます。

対馬市の耕地面積は約921ヘクタール、内訳は水田が579ヘクタール、畑が342ヘクタールとなっております。これは平成27年の県の資料となっておりますので、現在の時点でどの程度耕作されているのか。

また、耕作放棄地がふえる要因は、農業者の高齢化、後継者・担い手不足であろうかと考えます。今後、このまま放置しておけば、今後5年、10年後には対馬市の農業は危機的状況になるんじゃないかと思われまます。今後の対馬の農業、将来、振興、耕作放棄地の解消について市長のお考えをお伺いいたします。

2点目の対州そばの振興について。

対州そばが地理的表示保護制度に登録され、県内初で、全国61番目と聞いております。今、全国的にも注目されていると思われまます。このような機会に対州そばの振興、消費拡大に向け、観光客誘致にPRできないか。

現在、対馬市の指定管理者として、上県町そば道場、美津島町のふるさと伝承館、佐須地区の匠と、主にそばを販売、食するところは大きいところで3カ所でございます。今後、対州そばの作付、消費拡大に向けて、市長のお考えをお伺いいたします。

3点目のしいたけ生産の拡充についてお伺いいたします。

対馬しいたけ振興については、平成18年度から対馬しいたけ復活プランが計画され、20年度まで大型団地7カ所、うち新規参入4団地、規模拡大3団地で出発をしております。

それから現在まで、年次対馬しいたけの復活振興には計画をされ、市としては生産者の育成、担い手の育成事業等、新規参入に努力されていると思われまますが、農林業の高齢化、若者の新規参入は厳しい状況と思われまます。対馬しいたけ再生と今後の対馬市としての取り組み計画等についてお伺いをいたします。

あとは一問一答で再質問をいたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 新政会、初村議員の御質問にお答えいたします。

まず、1点目の耕作放棄地の解消についてでございますけども、平成29年度末の対馬市における再生利用が可能な荒廃農地は135ヘクタールでありまして、約3分の1が耕作放棄地となっております。

耕作放棄地を防ぐ取り組みといたしまして、中山間地域直接支払交付金制度による、現在345ヘクタールの農地の適正な管理に努めているところでございます。

また、農地中間管理事業により、これまで167ヘクタールの農地の貸借のあっせんに取り組み、農地の荒廃防止にも取り組んできたところでもございます。

既に耕作放棄地となりました農地を解消する取り組みにつきましては、容易に再生可能な農地は集落営農組織等がそばの作付を行うなど、年間8ヘクタールほどの解消に取り組んでいただいているところでございます。

また、再生利用が困難な農地につきましては、伐採、除根に対する費用の一部を助成する県の支援事業がありますが、採択要件が厳しく、また自己負担が重いことから、余り進んでいない状況だというふうに聞いております。

農地は適正に管理することで国土保全、水源の涵養、良好な景観形成などの多面的機能が発揮されることから、農地の荒廃は防いでいかなければなりません。耕地面積の少ない集落においては、過剰な投資を防止するため、農業機械等を共同利用する取り組みへの推進や、大きい面積の集落につきましては、集落営農組織での取り組みを推進していきたいと考えているところでございます。

続きまして、2点目の対州そばの振興についてでございますが、かねてより対州そば振興協議会が申請しておりました地理的表示、いわゆるG Iの保護制度登録につきましては、原種に近い対州そばを守る取り組みや、そばが持つ形状や味覚等の特徴が認められ、本年4月9日付で登録を受けることができました。

これを機に、島内外問わず、対州そば認定店制度を実施し、認定書を交付するとともに、店頭でののぼりやパンフレットの設置等で、対州そばの特徴やG Iを取得したことをPRしたり、全国のそば愛好者向けにグリーン・ツーリズムの旅行商品企画を発信し、観光客の誘致につなげていきたいと考えているところでございます。

実は私も昨夜、シンガーソングライターの福山雅治氏が、この長崎県のPRをしているビデオ、そして今回は対馬のPRをしているところを見てまいりました。特に厳原のふれあい処でそばがおいしいと、ワイルドなそばだというようなことで、いろいろ宣伝をさせていただいておりますので、この宣伝効果を大いに期待をしているところでございます。

次に、この経営所得安定対策事業や水田活用産地交付金、そばの出荷奨励事業補助金などで生産を奨励しているところではございますけども、そばを売り込むためには、さらなる生産量の拡

大が必要となってまいります。

対州そばは他産地のそばに比べ小粒でありまして、また雨や強風に影響を受けやすいなど、生産量が不安定な作物でございますけれども、生産者へ排水対策、肥培管理の注意喚起をこれまで以上に促すとともに、農地中間管理事業によりまして、遊休農地を有効利用し、安定収量の確保に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、3点目のしいたけ生産の拡大についてでございます。

しいたけの生産拡大につきましては、対馬椎茸やる倍ナバダス計画により、種駒補助や大型生産団地の導入による生産量の拡大とバイヤーとの商談による流通体制の拡大に取り組んできたところでございます。

また、農業次世代人材投資事業によりまして、9名の若者を新規就農につなげることができ、今後の活性化を期待しているところでございます。

さらに、本年度より日本きのこセンターが対馬駐在を設置していただき、技術指導等が受けやすい環境が整いましたので、御指導いただきながら生産の拡大につなげてまいりたいと考えております。

一方、近年は高齢化に伴うしいたけ栽培の重労働が多くの生産者に重くのしかかっており、個人の生産量が伸び悩んでいるという状況もございました。

このようなことから、多くの生産者から原木の供給支援が望まれており、平成28年度に原木林の賦存量調査を実施し、29年度には産地計画をまとめましたので、本年度は試験的でありませんが、原木の販売ができる供給協議会を設立し、生産者の労力の軽減と生産の拡大につなげてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 14番、初村久藏君。

○議員（14番 初村 久藏君） どうもありがとうございます。

それでは、順に従いまして再質問をいたしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

1点目の耕作放棄地の解消については、ただいま市長のほうからる説明がありましたので、ある程度はわかりましたけれども、まだまだ厳しい状況だと私は考えております。

特に環境を重視するならばですたい、環境王国の称号も対馬市はもらっておると思いますが、特に国県道沿い、草木が生い茂り、5年も10年もつくっていないようなところは結構見受けられます。特に名指したら悪いかもしれませんが、美津島付近、峰付近、あの辺が国道沿いで一番目立つようなところでございますので、あの辺の環境を、環境のためにも悪いと思っておりますが、どうかして、地主のおることですけれど、なかなかそれは難しいと思っておりますが、市が先頭に立って、そういうようなところをば解消はできないか。ひとつ模索はしてみたらどうですか。

そここのところをば、ひとつ見解をお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かに国道、県道沿いに多くの荒廃地が存在していることは承知しているところでございます。こういった農地につきましても、先ほどの説明でもいたしましたように、農地の中間管理事業によりまして、いろいろな貸借等のあっせんには取り組んでいるところでございますけども、今のところ思うようには進んでいないというのが実感でございます。

そして、市のほうでも農業振興公社のほうに、何せ、今からはそばがかなり需要がふえるというようなことで、そばの作付のほうもできるようにお願いを、今後またさらに続けていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 14番、初村久藏君。

○議員（14番 初村 久藏君） わかりました。ぜひ市のほうが指導して、農業振興公社なりに一応お願いをして、進めるようにお願いしておきます。

それと耕作放棄地の解消のため、農業法人の立ち上げが各地に私は必要だと思うわけです。高齢者で5年、10年したら今の頑張っている人たちもつくりきらんようになるんじゃないかなろうかと懸念をしております。

それで、農業法人とか異業種の参入、そしてもとに戻すには結構費用がかかるわけですよ。この辺は佐須の檜椎小原法人ですか、そこが今上槻あたり、そばと一緒になりますけど、そばをつくっておりますけど、大きな労力がかかって大変な負担になつてくると思うわけですよ。そここのところも市としてできる限りの応援をして、耕作放棄地を少なくするように努力をしてもらいたいと思います。それについて何かあれば。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今、議員のほうからも御指摘ありましたように、農業法人を設立しようとしても、なかなかこれは思うようにいかないというところで、今後対馬市といたしましては、できる限りいろんな方面、新規参入等も入れながら、農業関係の振興策をつくっていききたいというふうに思っております。御理解をいただきますようお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 14番、初村久藏君。済みません。マイクの使い方を、少し近づけてください。

○議員（14番 初村 久藏君） それでは、対州そばについてお伺いをいたしたいと思います。

29年度実績で対州そばの作付面積が約92ヘクタールですか。それと収穫量で2万9,180キロと、単当たりで換算すれば35キロです。収量的にも全体的に昔から比べたら減っていると私は感じております。これはそばだけでは、事業では、国、県、市の補助金がなければ採算はとれないと考えております。いろいろな補助金等があつて、何とかやっているような状況です。

それで、対馬農業振興公社と檜椎小原農業法人が約半分近く、そのうちにつくっているんじゃないかと思いますが、個人では82戸とありますけど、面積としては半分近くは、この法人がつくっておると考えております。

先ほども言いましたけど、檜椎小原は昨年、上槻のほうに耕作放棄地をば開拓をして約2.3ヘクタールですか、作付をしておったんですけど、これは自然の力というものは恐ろしいもので、台風によって一夜のうちに塩害に遭って、今全滅状態です。

そして、とつてもこれは金にならんけ、そのまますき込むかどうかせにやできんわけですけどですたい。せつかく耕作放棄地を開拓してつくっているわけですけどですたい。そういうものに対しての助成とか補助金等はないわけですか。何かあれば、ひとつお伺いをしたいと思っております。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） そばの奨励事業につきましては、そばの出荷奨励事業が、面積払いと数量払いというようなことで準備しているところでございますし、経営所得の安定対策事業としても、そういった補助を構えているということで、結構そばについては収益が少ないというような観点からも、手厚くしているというふうに私自身も感じてはおりますけども、今後これをさらに、どこまでできるかについては、またまたこれからいろいろと検討はさせていただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 14番、初村久藏君。

○議員（14番 初村 久藏君） なかなか難しい質問でございましたけど、そば、自然に田んぼやったら、ほとんど田んぼの転作で、約半分近くは田んぼにつくっておられると思うわけです。それで田んぼやったら、特に水はけの悪いところは、水がちょっと大雨が降ってさせば消えてしまう。そういうような状況でございまして、単当たりの収量がとれんわけですたいね。

結局、檜椎小原の件にしても、田んぼあたりはつくっとつても、一夜のうちに消滅するとか、全体でしても、収量的にも、いいときで三十何キロぐらい、悪いときは十何キロぐらいしかとれんわけです。奨励金が単当たり300円か、キロ当たり300円か、市から出とるわけですけど、それじゃとてもじゃねえが厳しい状況やで。それで、対州そばが認められたわけですけど、それを存続するためにも、市としても作付の奨励と、今後対馬のそばの販路拡大には力を入れてもらいたいと思っております。

それでですたい、今、対馬には大きくいえば、市の建物で指定管理でそばを3カ所で食べさせておられますけど、ほかの飲食店あたりも出しているところはあると思っておりますけど、それも厳原の玄関口、港とか空港、観光客が一番来るところですけど、立ち食いそばみたいな感じでも宣

伝はできないかなと。それはなかなか引き受け手も厳しいとは思いますが、何とかして売り込みに力を入れて、対州のイメージを、対馬のイメージをPRできるんじゃないかと思えますけど、そのところはどうかね。答えられにやいいですけど。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、登録店につきましてでございますけども、対馬島内に7店舗、そして島外が太宰府、静岡、長崎ということで、島外に3店舗の計10店舗ということになっております。

このことにつきましては、私も先ほどシンガーソングライターの福山雅治氏のことを言いましたけども、影響力、すごい方でございますので、このような方が対馬のそばはワイルドやなど、おいしいというようなことを言ってくださったわけですから、このことによって消費の拡大も伸びると思えますし、このことでもう少し値段のほうが少し上がってくればなということ、私も願っているところでございますので、そういう観点からしても、まずそばを、何せ作付をふやして収穫をふやさんことには、今のところなかなか島外にも販路が出しにくいというようなことを聞いておりますので、まず収量の増大に向けて、またいろいろとできる限りのことを努力していきたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 14番、初村久藏君。

○議員（14番 初村 久藏君） どうもありがとうございます。それで、そばの件ですが、耕作放棄地の件で、檜椎小原がまた上槻のほうに放棄地をば約1.3ヘクタールぐらい、今年度開拓するそうです。今草木をないで準備しているんですけど、その中でこれ農業中間機構か、県が、それに登録しとれば、そこから補助は出るわけですけど、登録していない部分が約4割ぐらいあるそうです。

それには補助が出らんけ、自費でせにやいけんというような話も聞いておりますので、そこんところ勘案しながら、市としてもできるだけ、せっかく開拓してするわけですが、それとそばに對しては、ニホンミツバチが大きく左右するんじゃないかろうかと考えております。それで、ニホンミツバチの復旧とか、ツマアカズメバチか、あれ対馬に来たのは。あれは駆除はどういうふうになっているか、そのところをちょっと、大体できているかどうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 農地中間管理機構の件につきましては、また後でこれは担当部長のほうに答弁させましょうか。（「いや、もういい。大体わかるけんが、あとは市の分のこれに對しての何かあれば」と呼ぶ者あり）わかりました。

それというように、このミツバチの関係でツマアカズメバチの駆除のほうをどうしているかということでございますので、このことにつきましては担当部長のほうに答えさせていただきま

す。

○議長（小川 廣康君） 観光交流商工部長、俵輝孝君。

○観光交流商工部長（俵 輝孝君） ツマアカスズメバチについては、私のほうからお答えをさせていただきます。

今年度の状況ですけれども、今年度の状況はまだ最終的な報告を受けてはおりませんが、一般の方からの通報の状況が極端に多いという認識を私のほうは持っております。

駆除としては5月、4月から5月にかけてトラップというか、女王蜂駆除をやって、夏からの数を抑えるというのをやっているんですけれども、ことしも昨年より若干トラップ数が少なかったんですけれども、それなりの実績を上げております。

ただ夏以降の気温というか、そのあたりに関係しているかどうか、はっきりわかりませんが、駆除がふえているという状況で、駆除が追いついていない状況ということで認識をいたしております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 14番、初村久藏君。

○議員（14番 初村 久藏君） 大体わかりました。時間もあと水産関係で坂本議員がやりますけど、しいたけについてちょっと触れてみたいと思います。

対馬のしいたけは、市のほうとしても年次計画をされ取り組んでおられますけど、20年度時点では異業種の人たちが4社ぐらい入ったわけなんです。しかし、現在は1社だけで、佐須の翔榮が対馬市のしいたけの約半分、植菌はしておられますけど、あそこの業者がなければ、対馬のしいたけは消滅してしまうんじゃないかと私は考えております。

それで、過去、頑張ってきてあるわけなんですけど、今消費拡大に向けて頑張っておるわけなんですけど、雇用に対しても非常に貢献をされて、常用で年間も30人、それでまだ今から先、10月から4月ごろまでは根切り、小切りで約8人ぐらい、7カ月か8カ月か雇用してあるわけなんです。

それで頑張っておられますけど、ちょっと聞いた話なんですけどですたい。

○議長（小川 廣康君） 初村議員、マイクを近づけてください。聞き取りにくい。

○議員（14番 初村 久藏君） 聞いた話なんですけど、今まで商談会ですか、商談会は大都市で年に二、三回程度、ありよつたと聞いておりますけど、それが来年からなくなるんじゃないかなろうかというような懸念をしておられますので、せっかく対馬のしいたけを売り込もうと頑張っておられますので、そのところをどういうふうに計画があるのか。

それとしいたけの出荷についてお尋ねをします。農協あたりを通せば、一応運賃が国境離島のほうで還元があるわけなんですけど、個人で送ったらないというような話も聞いておりますけど、何

かこれはいい方法はないものか。そこの点をひとつ、わかる範囲でお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、1点目の商談会がなくなるのではないかという懸念をされているということですが、このことについては担当部長のほうからお答えをさせていただきます。

そして、しいたけの2点目のところは聞き取りにくかったんですけども、（「輸送、運賃の」と呼ぶ者あり）

○議長（小川 廣康君） 初村議員、許可とってお願いします。

○議員（14番 初村 久藏君） 運賃の補助関係です。

○議長（小川 廣康君） もう一度、大きな声でお願いします。

○議員（14番 初村 久藏君） 運賃の助成です。国境離島で今運賃の助成があつとるでしょう。その件です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） しいたけ出荷に係る運賃でございますけども、これは有人国境離島法のほうで、我々としてはぜひしいたけのほうをやりたいんですけども、実は今、対馬のしいたけはヤマト運輸さんや郵便局のほうを使って直接出荷をしているということで、対馬から福岡に渡るまで、要するに海上運賃の料金が算定ができないというようなことで、今現在はまだ対象には含まれないということになっております。

そういうことでありますが、おっしゃられるように、我々もしいたけは対馬の産業として重要な産業でございますので、何とかしてこれができないものか、今後も研究を続けてまいりたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 14番、初村久藏君。

○議員（14番 初村 久藏君） どうもありがとうございました。時間が私はとり過ぎて、坂本君の時間がないので、この辺でやめたいと思います。今後検討して、ぜひできるようにお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） 商談会の答弁は要りませんか。

○議員（14番 初村 久藏君） いいよ、時間がないです。聞きます、後で。どうもありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） 続きまして、関連質問、新政会、1番、坂本充弘君。

○議員（1番 坂本 充弘君） 皆さん、おはようございます。新政会の坂本充弘でございます。ただいま会派代表質問で作元議員と初村議員が質問されましたので、私のほうは漁業振興について、その中で漁場環境の改善事業を中心にお尋ねをいたします。